

## 優秀賞

「日本の進むべき道」

—伝えるということ—

成城学園高等学校 二年

水野 夏穂

日本の進むべき道という題材のものを書くにあたって、私は真つ先にある言葉を思い出した。それは「今後世界のグローバル化が更に進み国と国との境は無くなっていくが、その環境の変化に対して日本人の平均的な英語レベルが世界に追いついていない。」というニュースでの発言である。英語が母国語の国は世界に数十ヶ国しかない。しかもそれに加えてここ最近日本は、英語が話せる人物の育成に力を注いでいる筈だ。なのに何故、日本人は他の国の人々に比べて英語が苦手になってしまっているのだろうか。人によって多少の差異があるとはいえ、人種によってそこまで大きな違いが生まれる原因は何だろうか。私はその理由を、留学に行った際に身をもって感じた。それはまさに「日本人らしい」考え方から生

まれる、世界と日本の考え方の差からくるものだった。

私が留学した先は、英語が母国語ではない国の子供達が集まる、インターナショナルスクールだった。そこで出会った外国人の子供達は皆、当たり前のように自分がやりたい事、言いたいことを言う。それに比べて私を含めた日本人の子供達はなかなか思ったことを発言出来ない。はいかいいえで答えることはあっても、自分の欲求や意見を文章にして伝えることは少ない。何故ならば冒頭で述べたように、日本人は文法や発音の苦手意識から発言することを恥ずかしがってしまうからだ。私もそこが気になってしまっていたことが言えず、辛いことが何度もあった。そんな私にドイツ人の友達がかけてくれた言葉が、私の見方を大きく変えた。「周りの子の英語力って案外大したことないから大丈夫だよ。」その言葉を聞いてから気を付けて周りの英語を聞くようにすると、文法がごちゃ混ぜであったり発音がその国独特の訛りが入っていてあまり綺麗ではなかったりすることに気付くことが出来た。考えてみれば当たり前だ、彼等も私達と同じように母国語が別にあるのだから。私達日本人と彼等の違う点は、英語の得意下手をあまり気にしないことだ。気にしないと書く

と少し語弊があるが、彼等は自分の言いたいことを相手に伝えることが何よりも大切であり、文法や発音の重要度はその次なのである。一見、英語力に大きな違いがあるように見えるが実は大差はなく、違うのはただ細かいことを気にせずには伝えたいことを言えるかということだけなのだ。

更に私達の将来はグローバル化と共に機械化、いわゆるAIも普及していくことになる。現在でもかなり性能が良く翻訳などもこなすAIだが、将来はもっと精度が上がり文法や発音なども人間により近く完璧になっていくだろう。つまり今日本人が悩んでいる問題は、少し経てばコンピューターが完璧にやってくれるようになるということだ。良い文法、良い発音はコンピューターに任せれば良いのだ。しかし、それで日本人が英語を学ばなくて良いわけではない。コンピューターを通して完璧な文法と発音で相手に謝罪をした時に、果たして相手は誠意を感じるだろうか。私はいいえとその問いに答えるだろう。何故ならば、コンピューターには人と関わる上で一番大切な感情や心、と呼ばれる部分が欠けているからだ。コンピューターがどんなに綺麗な言葉を並べたところで、それは所詮人間によってプログラミングされたものであ

って自分の言葉ではない。人間はどんなに言葉が下手でも表情や身振りによって相手の心に訴えることができるのである。感情や心というものは言葉だけでなく、表情や動作から感じ取ることが出来るもので、それはコンピューターには絶対に出来ないことだと思う。つまり、コンピューターはコンピューターの良さがあり、人間には人間にしか出来ないことがあるのだ。日本人はきつとAIが担当することになるであろう部分ばかりを気にして、人間にしか出来ないことが出来ない。将来私たちに求められるのは、正しく話すことではなく人間同士でしか伝えられない心の部分を相手に伝えることだと思う。

今の日本では、英語の文法や発音が苦手な人＝英語が苦手という認識が一般的であるから、日本人は英語が出来ないという考えに至っている。確かに、文法も発音もとても大切なことだ。しかしそれは言ってしまうとコンピューターにも出来ることであり、しかもそこを気にしては日本は世間に追いつくことは出来ない。私が思う日本の進むべき道は、間違いを恐れることなく言いたいことを伝えようとする心をみんなが持つ未来であると思う。